

# ウトナイ湖通信



No.226

2023年3月号



3月の中旬、日の出とともにねぐらのウトナイ湖を飛び立つマガン

ウトナイ湖は、周囲約 9km、面積約 275ha、平均水深約 0.6m の淡水湖です。鳥類はこれまでに約 270 種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。そのほとりにあるウトナイ湖野生鳥獣保護センターから、情報をお届けします。

## シマエナガのポンポン作り体験

3月11日(土)

11:00~14:00~

毛糸をぐるぐる巻いて、シマエナガのまん丸な人形を作りましょう。

定員:各回 4 組 申込先着順

(1 組 1 個の制作です)

小学生以下保護者同伴

事前申込:3/1~10 の開館

時間に電話で当センターへ



## お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

3月12日(日)

10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが 40 分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内するガイドウォークです。

(荒天時は館内ガイドウォークに変更)

定員:先着 10 名程度

小学生以下保護者同伴

事前申込:なし。

直接当センターへ



## アイロンビーズで野鳥づくり ~ガン類編~

3月18日(土)

11:00~14:00~

アイロンビーズで、野鳥を作りましょう。マガン、ヒシクイ、ハクガンから選べます。

定員:各回 4 組 申込先着順

(1 組 2 個までの制作です)

小学生以下保護者同伴

事前申込:3/8~17 の開館

時間に電話で当センターへ



## ウトナイ湖・春の渡り鳥ウォッチング

3月19日(日)

10:00~12:00

春の渡り鳥で飛来する水鳥を観察します。運が良ければ大型のワシ類も見られるかもしれません。双眼鏡や図鑑もお貸しします。

定員: 15 名 申込先着順

小学生以下保護者同伴

事前申込:3/1~18 開館時

間に電話で当センターへ



## 3月のイベント情報

### 市民ギャラリー

会期: 3月1日(水)~19日(日)

### 苦小牧の自然写真展

内容: 苦小牧市内で撮影した自然景観、野生鳥獣、植物、昆虫などの写真を展示します。

◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苦小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間: 午前 9 時~午後 5 時 / 入館無料

休館日: 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



~ ウトナイ湖 ~

- ・国指定鳥獣保護区特別保護地区
- ・ラムサール条約湿地
- ・東アジア・オーストラリア地域
- ・フライウェイ・パートナーシップ

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

検索

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。



## オオコノハズク

原因：カラスの襲撃

体重 148g



搬入時の様子



リハビリケージでの様子

1月 13日

苫小牧市内の企業敷地内でカラスに襲われているところを発見され、保護。同日中に保護センターへ搬送される。明らかな外傷は認めなかったが、衰弱傾向にあったため、経過観察をすることとした。



保護2日目には、自ら餌を食べるようになる。その後体力回復、体重増加を目指し、2週間ほどで体重は170gほどまで増加した。また、飛翔リハビリも順調にすすみ、無事にリリースにいたる。

2月 3日

リリース

オオコノハズク (フクロウ目 フクロウ科)

全長24cm。雌雄同色。全体に灰褐色で、黒や白、褐色の斑があり複雑な模様になっています。北海道では1年を通じ生息する種で、平地から山地の森林でくらしています。目が大きく、虹彩はオレンジ色をしています。主に哺乳類や小鳥類を捕食しますが、カエルやトカゲ、昆虫なども食べます。

## トピックス



### 世界湿地の日に湿地の重要性を体感

世界湿地の日にあわせ、2月4日にイベントを行いました。ウトナイ湖や湿地の重要性、傷病鳥獣救護活動等の解説をしたのち、屋外へ出発。自然観察路で見られる生きものの足跡や、植物の冬芽を観察し湖岸へ移動。顕微鏡を使い雪の観察を行ないました。15名の参加者は頭上を通過するオオワシも見ることができました。



### 待ちに待った3月、数万羽におよぶ雁

ラムサール条約湿地ウトナイ湖を象徴する、数万羽の雁(ガン)の群れが飛来する時期がやってきました。本州から北上してきたマガンをはじめとしたガン類は春にウトナイ湖でねぐらをとります。早朝のねぐら立ち、夕方のねぐら入りの迫力は満点です。羽数の変動は、当センターSNSやウトナイ湖サンクチュアリの最新自然情報などをご覧ください。



## ボランティアコーナー

当センターの来館者対応やイベントの時に、積極的に来館者にお声がけするボランティアの工藤利明さんに、インタビューしました。

ボランティア活動は鳥獣保護センターを含めて5個くらいしています。色々な方と出会って話す楽しさに加えて、自身の視野が広がるので、今まで気がつかなかったことを再認識できることも魅力です。

### 【ボランティアの魅力】工藤利明



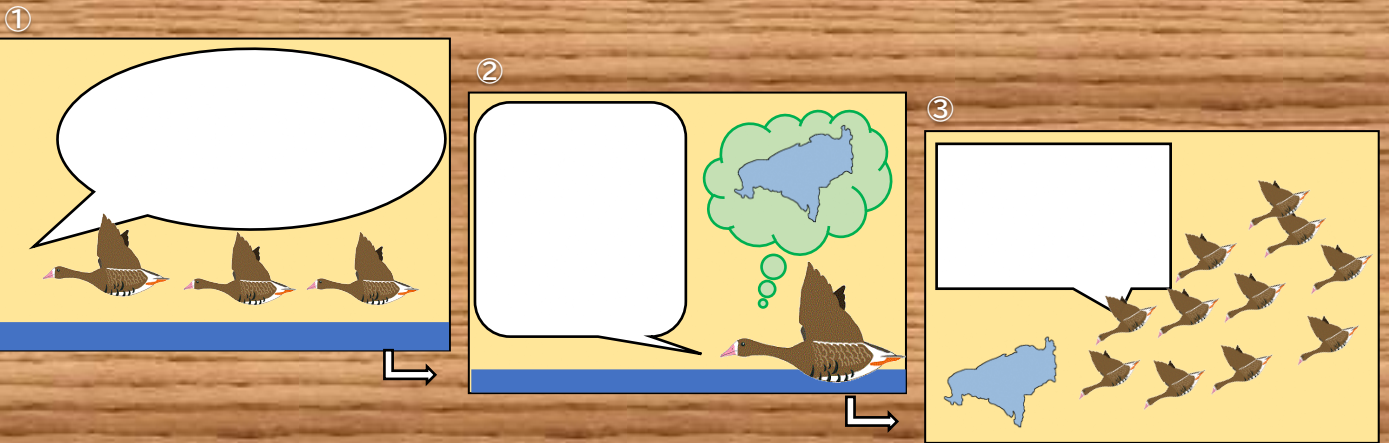
来館者にウトナイ湖の自然を案内する工藤氏

「なぜ、野鳥がやってくるのか？それは豊かな自然が残されているからです。」と、鳥獣保護センターでボランティアをする時はウトナイ湖や自然を守る大切さを伝えるように意識しています。

ウトナイ湖の自然の魅力は渡り鳥だと思います。オオハクチョウやコハクチョウが渡ってきたのを見ると「今年も元気に来てくれた」と嬉しくなります。渡り鳥は、「いない時期がある」からこそ、見られた時の感動が大きくなります。

## 【ウトナイ湖・3コママンガ】 ウトナイ湖 お楽しみコーナー

ウトナイ湖に渡ってくるマガンの気持ちでセリフを入れて、3コママンガを完成させましょう♪



公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



facebook



Twitter



# レンジャーのおすすめ自然情報



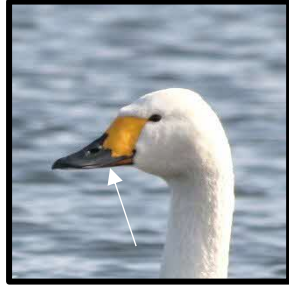
【マガン】  
全長 72cm  
嘴は薄いピンク色で、つねが白い。キャハハ、キャハハと子犬のような声で鳴く。



【ヒシクイ】  
全長 78~100cm  
嘴の全体は黒く、一部オレンジ色が入る。ガハハンやギャハハと鳴く。



【オオハクチョウ】  
全長 140cm  
矢印の黄色部分が、黒部分に細長く食い込む。コー！コー！と鳴く。



【コハクチョウ】  
全長 132cm  
矢印の黄色部分が、黒部分にあまり食い込まない。コツ、コツと鳴く。

3月のウトナイ湖には、越冬していた本州から、北の繁殖地に向かうハクチョウ類、ガン類、カモ類などの水鳥が、中継地として立ち寄ります。そのなかでも圧倒的な数を誇るのが、マガンで、群れでウトナイ湖にねぐらをとります。

環境省レッドリストでは準絶滅危惧種、国の天然記念物にも指定されています。

ガンの群れの中には、その他にも、ヒシクイ(亜種ヒシクイ、亜種オオヒシクイ)、ハクガン、シジュウカラガンなどが見られます。



ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらか



Instagram



facebook



Twitter

## 自然観察路ガイドマップ【冬】



### 冬のお薦めポイント

湖の大部分が結氷します。氷の上にオジロワシやオオワシの姿が見られます。林の中では、留鳥のハシブトガラなどのカラ類やエナガ・キバシリなどの混群が見られます。木々の葉が落ちていたので、小鳥たちを観察しやすい季節です。

冬はこのような休んでいることが多いです。

湖の水の上に足跡がたくさんあります。